



〈会員の窓 7〉

淀川の市民活動と環境改善

副会長 綾 史郎



淀川愛好会の設立時、事務局長の澤井先生に摂南大学の姉妹校である大阪工大にも淀川愛好会を広めたいというお話で副会長を引き受けることになったが、当初の目論見と異なり大阪工大の会員はほとんどいないが、大阪工大では2007年に私が顧問となって、『大阪工業大学城北水辺クラブ』を立ち上げたので、この活動を紹介したい。

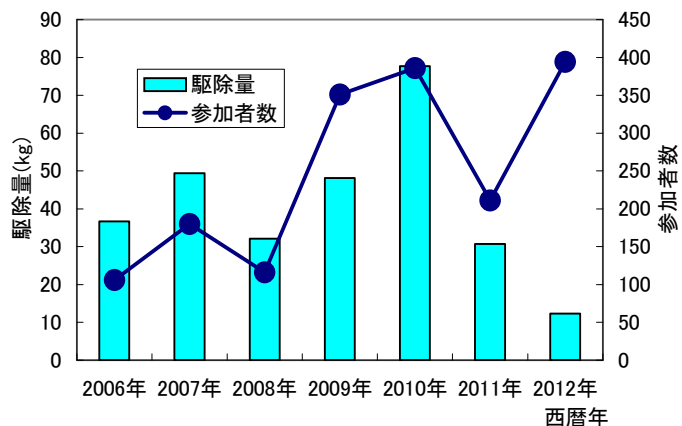
淀川愛好会が淀川流域全体を対象にして市民活動を行っているのに対して、城北水辺クラブは淀川の城北ワンド群の生態環境の改善に特化している。その理由は大阪工大のすぐ隣にあり、淀川に隣接する生物多様性の宝庫として知られていた城北ワンド群の生態環境が外来種の異常増殖（ブルーギル、ブラックバス、ホテイアオイ、ナガエツルノゲイトウ、ボタンウキクサ、アゾラ等）により著しく悪化し、生息在来魚種数、個体数が著しく減少し、天然記念物・貴重野生動植物種であるイタセンパラが野生絶滅するなど環境改善の必要性が高まり、地元大学としてこれに積極的に寄与したいからである。

2007年の設立以来、琵琶湖を戻す会が主催する5月の外来魚釣り大会に参加し、2008年からは共催している。同時に、学内でも春や秋に工大生対象に外来魚駆除釣り大会を開催してきた。外来魚ばかりでなく、外来植生の駆除を行ったり、大阪工大や淀川河川事務所が主催する河川敷のゴミクリーン活動にも団体参加したりもしている。2011年からは淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワークにも参加して、摂南大学のエコシビル部とともに有力な活動団体となっている。

今では恒例となった外来魚駆除釣り大会 in 淀川は、かつて生物の宝庫といわれ、イタセンパラの国内最大の生息地であった城北ワンド群の外来魚に占領された悲惨な姿を認識していただき、駆除活動を啓発することを目的として2006年から始まった。図はその参加者数とブルーギル、ブラックバスの駆除湿重量の開始以来7年間の推移を示したものである。2006年にわずか100人あまりの参加者で始まった本大会も2009年には350人と飛躍的に増加し、2012年には400人もの人に参加してくれるようになった。一方、駆除量のほうは35kg余りから始まり、2010年には80kgを記録したがその年以降急減し、2012年はわずか10kg程度しか駆除できなかった。駆除量の急激な低下に反し、これまでほとんど釣れなかった在来魚の漁獲種数、個体数が増加した。在来魚復活の兆しがでてきたのである。もちろん、これは駆除釣り大会の成果ではない。1年に1回の駆除活動でこのような成果が出るわけも無く、2010年より始められた管理者である淀川河川事務所や大阪府立水生生物センターの組織的な駆除活動や市民団体の駆除活動の成果と考えられるが、外来魚駆除釣り大会がこのような駆除活動を後押ししたと考えられる。

ともに淀川河畔に立地する摂南大学の淀川愛好会、大阪工業大学の城北水辺クラブが市民活動、河川環境改善活動と分野は異なるが、淀川を舞台に活躍の輪を広げていることは頼もしく、嬉しい限りである。

(大阪工業大学都市デザイン工学科教授 河川水理, 河川環境)



イベント案内 (詳細は4ページ)

淀川愛好会 総会・新年会 2013

恒例の新年会を今年は場所を変えて行います。

第15回淀川討論会(兼 環境用水研究会淀川左岸部会第17回研究会)

今年も淀川水系についての討論会を開催します。

イベント報告

いい川・いい川づくりワークショップで入賞！

9月22日(土)・23日(日)、「第5回いい川・いい川づくりワークショップ(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)」に摂南大学からはエコシビル部6名が出場し、「関西の水系をエコシビルの若者がつないでいくで賞」を受賞しました。全国から様々ないい川をつくる活動団体が集まり、交流を深めることができました。

猪名川・藻川水辺まつり

9月23日(日)に兵庫県尼崎市の猪名川河川敷で水辺フェスティバルが開催され、Eボートの乗船体験を行いました。Eボートだけでなく、カヌーや葦船等多くの船でにぎわいました。会場は潮汐の影響を受け、だんだんと水位が下がっていくなかの乗船で苦労しました。会場内では地元の出店やフリーマーケット、猪名川の生物の展示等が行われていました。

つぎねふ修楽～木津川で遊ぼう～

9月29日(日)に「つぎねふ修楽」(主催：つぎねふ楽舎)という催しが京都府木津川市加茂町で開かれました。この日は笠置町から加茂町までEボートを運行する役割を担いました。木津川でのEボート乗船は、川の流れが速く、操船が大変でしたが、スリル満点で普段とは一味違う楽しみを感じました。笠置町と加茂町の間にある和束町木屋で休憩を挟み、地元でとれた和束茶と三色団子を振舞っていただきました。ゴール地点の加茂町では特産品販売やフリーマーケットがあり、大変にぎわっていました。

淀川流域「鮎の見聞」

9月30日(日)、京都大学防災研究所オープンラボラトリーにて淀川流域「鮎」の見聞(主催：京の川の恵みを活かす会・桂川流域ネットワーク)が行われました。当日は台風の影響で天候がすぐれませんでした、予定通り開催されました。第一部は淀川流域の「鮎」についての勉強会で、水生生物の勉強や各会の活動報告を聞きました。第二部の交流会では、宇治川・桂川・木津川・鴨川・猪名川・芥川・宇川の天然鮎、天竜川漁協からの養殖鮎とで合計8種類の鮎を食べ比べアンケートで人気を収計しました。宇川などの天然アユが人気で多くの支持を集めていました。

摂大祭

10月6日(土)～8日(月)にかけて摂南大学の文化祭である摂大祭が開催されました。多くの模擬店やステージ企画で会場が盛り上がっていました。エコシビル部は活動展示や、焼き鳥の模擬店出店、大学裏の第4水路で田舟クルーズを行いました。

城北ワンド外来魚駆除作戦

10月20日(土)に淀川左岸の城北ワンドで外来魚駆除釣り大会(主催：大阪工業大学城北水辺クラブ)が行われ、春の同大会に続いて、摂南大学からエコシビル部が参加しました。なかなか釣れなかった春に比べると多くの魚が釣れてうれしくもありましたが、外来魚の多さに複雑な心境でした。また、水生生物センターによる絶滅危惧種のイタセンパラの展示がありました。

淀川河川敷フェスティバル

10月20日(土)・21日(日)に十三の淀川河川敷で、開催されました。(主催：淀川フォーラム実行委員)たくさんのフリーマーケットと人でにぎわっている中、本会では21日に淀川の干潟でEボートを浮かべて乗船体験をしました。ヨシが生い茂っている中をEボートで進んでいると、まるで冒険をしているかのように感じて楽しかったです。



発表風景



葦舟に乗船



地元の方との記念撮影



鮎を焼いている様子

産学公民地域連携フォーラムや
教職員・学生・市民合同音楽祭も
開かれました。



展示されたイタセンパラ



Eボート乗船

橋梁コンテスト出場

10月31日(水)・11月1日(木)に「建設技術展 2012 近畿」(主催:日刊建設工業新聞社・(社)近畿建設協会)が「マイドームおおさか」で開催され、その中で橋梁模型製作コンテストの学生部門に、摂南大学の都市環境工学科とエコシビル部から学生が4チーム出場しました。残念ながら入賞は逃しましたが、30 kgの載荷テストに耐えられない橋梁が続出する中、摂南大学の橋梁はすべてクリアしました。

豆島フェスティバル

11月3日(土)に兵庫県尼崎市の猪名川と藻川の合流点にある「島」の周辺で「近畿水の塾」会員らの関わったお祭りが開催され、本会もEボートで参加しました。地元では名前のない島を「豆島」と呼んでおり、ここは河川改修の際に周辺の環境や漁業のために島として残された空間です。外来植物が多く繁茂し、ヌートリアなども生息しているので、今後は駆除活動等で活発に活動していくようです。

クリーンリバー寝屋川・秋

11月4日(土)にクリーンリバー寝屋川作戦・秋(主催:クリーンリバー寝屋川実行委員会)に参加しました。淀川愛好会は萱島信和町の清掃を行い、春の作戦と同様に不法投棄物を中心に合計35トンものゴミを川から引き上げました。肌寒い季節にも関わらず、参加者は全清掃箇所を合わせると400人にもものぼり、地域の方々の清掃に対する意識の高さを感じることができました。

寝屋川再生ワークショップ・現地見学会

11月10日(土)に春に行った第一回目の意見を反映して、今年度二回目の寝屋川再生ワークショップを行いました。前回の話し合いで取り上げられた候補地や水路をマイクロバスに乗って順次見学しました。寝屋川市の水路や河川の現状を直接確認したのちに、駅前の産業振興センターで各水路に関する整備案や要望を検討しました。

茨田樋イチョウまつり

11月23日(金)に河川レンジャー主催で寝屋川市の点野(しめの)にある大イチョウの根本で点野・茨田樋(まったひ)遺跡水辺公園で行いました。午前中はEボート乗船、午後からはみんなで様々な植物を植えたり公園で採れた銀杏や、市内小学校から頂いたサツマイモを使った料理を食べたりしながら、交流会に参加しました。雨にも関わらず、50人程がEボートに乗船しました。また、新たに企画したクイズラリーにも参加多くの人に挑戦してもらいました。とても楽しそうにクイズを解いてもらえて良かったです。

淀川愛好会 秋のイベント!

11月24日(土)に淀川愛好会「秋のイベント」として「第3回 大和川源流探訪」(主催:大和川市民ネットワーク)に参加しました。大和川の支流の石川の保全状況等を見学したのち、途中で弘川寺と里山を見学し、上流の滝畑ダムから源流の光滝までをハイキングしました。清らかな源流と里山の紅葉がとても美しく、川と山とで楽しい経験ができました。

殿田いなか祭り

11月25日(日)に天若湖アートプロジェクト学生会議で作成した「ひよしまちあるきマップ」の作品展示を南丹市日吉町で行いました。餅つきや子ども神輿などで短い時間ながら大いに盛り上がりました。



展示した橋梁模型



豆島(仮称)

参加者の声:
また自転車とれたー!!



各班の発表



植物を植えている様子



弘川寺での説明



餅つき

淀川愛好会 総会・新年会2013

淀川愛好会の総会・新年会を下記のように企画いたしました。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2013年1月11日(金) 19:00～21:00

会場：酒処かつみ 寝屋川市東大利町4-15(大安寿司の向かい)

京阪本線 寝屋川市駅から西へ300m

参加費：3000円

申込先：淀川愛好会事務局

申込〆切：12月22日(土)



第15回淀川討論会(兼 環境用水研究会淀川左岸部会第17回研究会)

今年も淀川討論会を開催することになりました。討論会後には懇親会も催します。

主催：淀川愛好会

日時：2月16日(土)14:00～17:00(懇親会：17:00～)

会場：摂南大学寝屋川キャンパス スカイラウンジ(11号館11階)(懇親会も同会場)

テーマ：「災害・資源・環境問題を通してライフスタイルを考える」

- | | |
|------------------|--|
| 1. 「近年の水害のふりかえり」 | 宇治・紀伊半島・中国北京：張浩(京都大学防災研究所助教)
寝屋川市：正岡聡(摂南大学工学部都市環境システム工学科)ほか |
| 2. 「わたしたちの星はいま？」 | 相本太刀夫(元摂南大学薬学部教授) |
| 3. 「環境用水研究会の動き」 | 上野裕士(内外エンジニアリング) |
| 4. 「災害時の避難対策」 | 小笠原裕介(摂南大学大学院)ほか |

参加費：無料(懇親会は3000円)

申込先：淀川愛好会事務局

参加申込〆切：2月9日(土)

〈会員の窓 8〉

会話力

小川 芳也

2004年3月に大学院修士課程を修了し、現在の企業に就職して8年が経過しました。この間、2～3年毎の異動もあり、河川、道路、公益関係と様々な分野を経験しました。この経験を通じて感じ入ることの1つに「会話力」が挙げられます。会話の相手は顧客、協力会社、上司、部下等と様々な立場、世代の方がおられ、理解や納得が得られる説明は相手に合わせて変化させないといけません。学部時代から淀川愛好会に関わりこの経験ができたことは、社会に出て非常に助かりました。今後も淀川愛好会等の活動に関わり地域活性化に貢献すると共に自己研鑽していきたいと思えます。

(平成12年学部卒、平成14年修士課程修了、現・博士後期課程 水辺環境創出研究室、(社)近畿建設協会)

編集後記

この度初めて“石川をめぐるバスツアー”に参加した。河川や里山がいろいろな団体やボランティアの活動によってそれらの機能や景観が保全されていることを目の当たりにし、素晴らしいことだ、と思いました。関係者の弛まざる努力に敬意を表したい。が一方で、このような活動なくして保全できなくなった私たち人間の奢りに悔悟の念を禁じ得なかった。

私たち日本人は、必要なエネルギーのおよそ30倍も消費し続け、地球に大きな負荷をかけている現実を目を瞑り、攪乱された自然や環境の保護を唱えること自体がまったく理に合わないことだ。人類は他の生物と共存し、共に生き存えるためにそろそろプロメテウスに“火”なるものを返し、別な途を模索すべき時がきているのでは？

編集長 相本太刀夫(元摂南大学薬学部教授)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 澤井教授室内

TEL/FAX：072-839-9124 携帯電話：090-2196-9594(澤井)

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail：sawai@civ.setsunan.ac.jp(澤井) または 091048nh@edu.setsunan.ac.jp(中根)